

カリキュラムマップ

工学研究科情報・制御システム工学専攻 博士課程後期 R6年度入学生適用 (学位：博士(工学))

ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

【知識・理解】 DP1: 情報社会や産業基盤の変化に対応できる広い視野と思考力を有している。

【技能】 DP2: 最先端の研究・開発を実施し自立的に問題を解決する能力を有している。

【態度・志向性】 DP3: 研究者あるいは技術者として自立的に問題解決の術を探究する姿勢を有している

DP4: 自身の研究成果を国際的に発信する能力を有している

*3つのポリシー DPと

特に強く関連：◎ 強く関連：○

	部門	授業科目名	単位数	配当年次	期別	知識・理解	技能	態度・志向性	
						DP1	DP2	DP3	DP4
研究指導 科目	情報処理工学 専修	情報処理工学特別研究Ⅰ	2	1年次	前期	◎	◎		
		情報処理工学特別研究Ⅱ	2	1年次	後期	◎	◎	○	
		情報処理工学特別研究Ⅲ	2	1年次	前期		○	◎	○
		情報処理工学特別研究Ⅳ	2	1年次	後期		○	◎	○
		情報処理工学特別研究Ⅴ	2	1年次	前期		○	◎	◎
		情報処理工学特別研究Ⅵ	2	1年次	後期			◎	◎
	情報伝送工学 専修	情報伝送工学特別研究Ⅰ	2	1年次	前期	◎	◎		
		情報伝送工学特別研究Ⅱ	2	1年次	後期	◎	◎	○	
		情報伝送工学特別研究Ⅲ	2	1年次	前期		○	◎	○
		情報伝送工学特別研究Ⅳ	2	1年次	後期		○	◎	○
		情報伝送工学特別研究Ⅴ	2	1年次	前期		○	◎	◎
		情報伝送工学特別研究Ⅵ	2	1年次	後期			◎	◎
	システム制御工学 専修	システム制御工学特別研究Ⅰ	2	1年次	前期	◎	◎		
		システム制御工学特別研究Ⅱ	2	1年次	後期	◎	◎	○	
		システム制御工学特別研究Ⅲ	2	1年次	前期		○	◎	○
		システム制御工学特別研究Ⅳ	2	1年次	後期		○	◎	○
		システム制御工学特別研究Ⅴ	2	1年次	前期		○	◎	◎
		システム制御工学特別研究Ⅵ	2	1年次	後期			◎	◎
	機能デバイス工学 専修	機能デバイス工学特別研究Ⅰ	2	1年次	前期	◎	◎		
		機能デバイス工学特別研究Ⅱ	2	1年次	後期	◎	◎	○	
		機能デバイス工学特別研究Ⅲ	2	1年次	前期		○	◎	○
		機能デバイス工学特別研究Ⅳ	2	1年次	後期		○	◎	○
		機能デバイス工学特別研究Ⅴ	2	1年次	前期		○	◎	◎
		機能デバイス工学特別研究Ⅵ	2	1年次	後期			◎	◎

部門共通	インターンシップ	2	1年次	(半期)		◎	○	
特修科目	言語工学特論A	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	言語工学特論B	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	知能処理特論A	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	知能処理特論B	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	知能処理特論C	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	情報処理工学特論A	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	情報処理工学特論B	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	情報処理工学特論C	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	情報処理工学特論D	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	伝送素子特論	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	情報伝送工学特論A	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	情報伝送工学特論B	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	情報伝送工学特論C	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	情報伝送工学特論D	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	パワーエレクトロニクス特論A	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	パワーエレクトロニクス特論B	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	機械システム制御特論A	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	機械システム制御特論B	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	機械システム制御特論C	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
	機能デバイス工学特論A	2	1年次	(半期)	◎	◎	○	
機能デバイス工学特論B	2	1年次	(半期)	◎	◎	○		
機能デバイス工学特論C	2	1年次	(半期)	◎	◎	○		
機能デバイス工学特論D	2	1年次	(半期)	◎	◎	○		
デバイス材料工学特論	2	1年次	(半期)	◎	◎	○		

博士課程後期の場合

【修了要件】

※博士課程後期の修了の要件は、大学院に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。（優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。）

DPに示す資質・能力を有していると認められるものに学位が授与される。

【必要修得単位】

・学生は、研究指導科目のうちから選定した一つの部門を専修部門とし、主指導教員及び副指導教員から授業科目の選択、学位論文の作成その他研究全般について指導を受けるものとする。

・学生は所定の授業科目について、合計16単位以上を修得しなければならない。この単位は、原則として次の区分によって修得しなければならない。

(1) 研究指導科目のうちから、必修として専修部門の特別研究のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ8単位、選択必修として専修部門の特別研究のⅤ、Ⅵ及び部門共通科目のうちから4単位、計12単位

(2) 特修科目から4単位以上

・主指導教員が必要と認めた場合は、学際プログラム、他専攻、他研究科、全研究科共通科目又は他大学大学院の授業科目を履修し、これを特修科目の単位にあてることができる。

・博士の学位論文は、専修部門について提出するものとする。

【科目分類】

研究指導科目・・・指導教員により与えられたテーマに基づく研究を実施する。研究テーマに関する知識を深化させるとともに、課題解決方策を自立的に探求できる能力を身につける。

部門共通科目・・・インターンシップを行う。最先端の研究・開発技能を学び自立性を身につける。

特修科目・・・講義や演習を実施する。幅広い知識を獲得するとともに、多角的な思考ができる技法の基礎を身につける。

【年次ごとのスケジュール】

年次ごとのスケジュールは以下の通り。なお本スケジュールは典型例であり、前倒しで早期履修を行うことを妨げるものではない。

1年次・・・研究遂行基礎能力の養成

- ・研究指導科目において、指導教員の指導を受け研究テーマを設定し、本テーマに基づく「研究計画書」を作成する。テーマに関連した情報調査により研究に対する理解を深め、教員や大学院生から指導・助言を受けながら適切な解決課題を設定する。研究成果に応じて学会発表や論文投稿を行う。年度末に達成した成果を特別研究学修評価シートにまとめ提出する。
- ・特修科目において講義や演習を受講する。
- ・インターンシップが適切と認められた場合には、部門共通科目として受講する。

2年次・・・研究遂行能力の養成ならびに研究開発の遂行

- ・研究指導科目において、引き続き指導教員の指導を受けつつ、自立性を持って研究開発を遂行する。研究成果に応じて学会発表や論文投稿を行う。可能であれば国際性を持った発表・投稿を実施する。年度末に達成した成果を特別研究学修評価シートにまとめ提出する。
- ・インターンシップが適切と認められた場合には、部門共通科目として受講する。

3年次・・・専門的知識に基づいた高度な研究遂行力の養成と国際性の育成

- ・研究指導科目において、引き続き指導教員の指導を受けつつ、自立性を持って研究開発を遂行する。年度末に達成した成果を特別研究学修評価シートにまとめ提出する。
- ・研究成果に応じて学会発表や論文投稿を行う。可能な限り国際性を持った発表・投稿を実施する。
- ・学位論文の構成を定め、研究の完成度を上げ、学位論文論題を提出。主査、副査の指導を受ける
- ・学位論文を完成させ提出する。
- ・事前審査と主指導教員を主査とする審査委員による本審査を経て、公聴会で発表を実施する。
- ・これらの審査に合格後、学位が授与される。